

# 「Hurray！」 ぽぷりかさんのおすすめ本①

## 『FLCL』 GAINAX/原作 ウエダハジメ/漫画 講談社

『ガイナックスによる全6話のOVA作品FLCLのコミカライズ作品。全2巻。人におススメする、というよりはただ好きな漫画。そもそもOVAのFLCLが大好きで、アニメーション作品の原体験かもしれません。「理解は出来なかったけど、なんか好き」でした。この漫画版は全く原作のストーリーに準拠しておらず、作者ウエダハジメ先生の世界観が凄いです。奇天烈で読みづらいのですがこちらも「よく分からないけど面白かった」のを覚えています。そして、終わり方は漫画のほうが好きです。



## 『G戦場ヘヴンズドア』 日本橋ヨヲコ/漫画 小学館

漫画を描く漫画。全3巻の短いお話ですが、その短さの中でしかありえないであろう熱量が凄く好きです。技術が上手い、絵が上手い、ではない力を感じます。劇中でも同じ言葉がありますが、「遺書のような血の通った」漫画だと思いました。同じく漫画が題材の人気作品『バクマン。』と比較するととても内省的で、何かを成し遂げたいから進むのではなくどこまでも自分自身の納得の為のお話。今思い出しましたが、はじめてPixivに投稿したイラストはこの漫画を読んで堪らなくなり描いたものでした。



## 『ピンポン』 松本大洋/漫画 小学館

スマイルとペコという二人の男の子を軸とした卓球漫画。全5巻。「勝負事で人に勝つ」という事に対して、迫られて、逃げて、欲して、追われて。登場人物が全員それぞれの辛さを背負い、それぞれのターニングポイントを向かえ、歩いていく様が本当に良いです。メディアミックス化は好きな方ではないのですが、ピンポンは映画、アニメどちらも面白かったです。



## 『惑星のさみだれ』 水上悟志/漫画 少年画報社

超能力を得た子たちが地球を壊されない為に戦うお話です。全10巻。「子供」と「大人」をテーマとして描いているように感じ、彼らの戦いや経験をとても羨ましく思えた。そしてその魅力的なドキドキはある意味で普遍的なもので、現実を生きる自分にも得られるはずのものだと考えた記憶があります。読み終わって色々な事を思い、そしてとにかく前を向いて生きようと思えた漫画です。



## 『アイシールド21』 稲垣理一郎/原作 村田雄介/漫画 集英社

スポーツ漫画で何がおススメ？と聞かれたらこの漫画を上げます。誰にでも読みやすく、そして必ず胸が熱くなる瞬間があると思う。お話や演出だけでなく、絵の上手さ漫画としての誇張表現やデフォルメの効かせ方が超絶に上手いです。見開きの使い方がとても魅力的だったため、今主流であるスマホで読んでしまうと迫力が薄まる気がしてそこがもどかしいです。コミックスか、設備のある人はパソコンなどの大きいモニターで読んでほしいですね。



## 「Hurray！」 ぽぷりかさんのおすすめ本②

### 『3月のライオン』 羽海野チカ/漫画 白泉社

中学生で将棋のプロ棋士になった男の子の話。連載中。色んな人が魅力的です、勝たなくては生きられない世界で戦う主人公も、その横で平和に女子高生をやっている子も、誰もが必死に何かの為に戦っていて、それは凄く魅力のある事だと感じさせてくれます。巻を進めるたび、何も為さなかったとしてもどうか彼らが幸せであってほしいと願うようになった漫画です。



### 『魔人探偵脳噛ネウロ』 松井優征/漫画 集英社

“謎”を食料とする魔人に付きまといわれた女子高生の主人公が、様々な事件に巻き込まれていくお話。全22巻。イロモノっぽい絵柄や展開に半比例するように、テーマや基盤になっている考え方がとても誠実で前を向く力をくれます。最終巻末に書いてある「漫画という商品を届けるプロとして、どこで連載が終わったとしても面白いと思ってもらえるものを作ろう。」という考え方がとても好きです。



### 『ホーリーランド』 森恒二/漫画 白泉社

いじめにより引きこもりになった子が独学でボクシングを覚え、路上での喧嘩でその才能に目覚めていくお話。全18巻。独特なのは、作者自身が格闘経験者でありその経験談が作中にかなり多く出てくるところ。普通は物語に入り込めなくて引いてしまうかもしれませんが、それが逆に効果的な印象を出していました。暴力に頼らなくても生きていける現代で、それでも自分が暴力の技術を覚える意味。強さとは何か。ほとんどの漫画がそうですが、特にこの作品は是非10代のうちに読んでほしい。そしてできれば20代になってもう一度。



### 『ハイパーインフレーション』 住吉九/漫画 集英社

強大な国家から奴隷として搾取されるだけだった部族の少年が、偽札を身体から大量に出せる能力を手に入れ、自由を得るために奮闘するお話。全6巻。一言で言えば頭脳バトルものですが、キャラクターの強さ、ギャグセンスの高さ、人間の意思の熱、貨幣の仕組みについての学び、色んなものが混ざり合って本当に独特の体験が出来ます。現在ジャンプ+で連載中のサンキューピッチも最高に面白いです。



### 『ひとりぼっちのソユーズ』 七瀬夏扉/著 主婦の友社

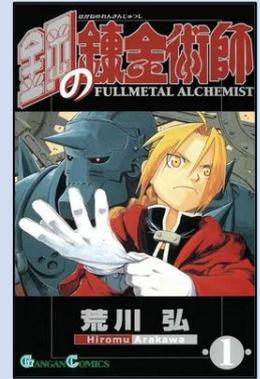
僕はほとんど小説を読まず、意識して読んでいた時期もありましたがそれらはほとんど全て内容を忘れてしまいました。なので今回のおススメも漫画ばかりなのですが、『ひとりぼっちのソユーズ』は強く記憶に残っている小説です。個人の強い感情が遠大な世界の地平まで走っていくSF独特の魅力を強く感じる作品でした。小さな小話ですが『数分間のエールを』の最後のMVで主人公が着ているツナギには肩にナナセと書かれていて、それはこの小説の作者の七瀬先生を意識しての事でした。



# 「Hurray！」おはじきさんのおすすめ本①

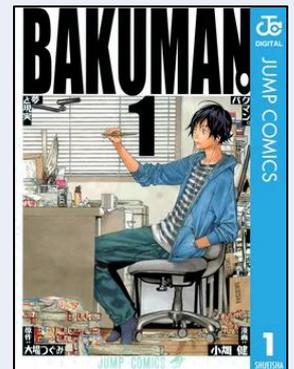
## 『鋼の錬金術師』 荒川弘/漫画 スクウェア・エニックス

言わずと知れたダークファンタジーの名作です。ストーリーに無駄がなく、最初から最後までずっと面白い！端役に至るまで全てのキャラクターが「生きている」と感じられるのも最高。その上漫画表現が巧みでめっちゃうちゃ読みやすい。未読の方は騙されたと思って一巻読んでみてください。



## 『バクマン。』 大場つぐみ/原作 小畑健/漫画 集英社

漫画家たちが原稿を通して信念や哲学をぶつけ合うバトル漫画！...だと思っています。前作「DEATHNOTE」から一転して明るめの作風...かと思いきや才能について結構シビアに描いている点が好みます。漫画家として順風満帆ではない側のキャラクターたちがどうそれに向き合い、乗り越えていくのかが気になって毎週ジャンプを捲っていました。



## 『聲の形』 大今良時/漫画 講談社

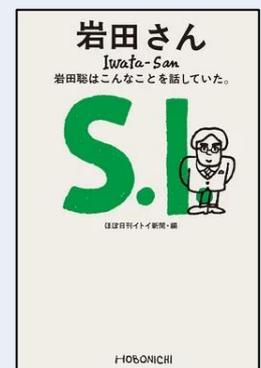
いじめを題材にした話なので登場人物がみんな“良い人”ではなく一筋縄ではないのが生々しい。言葉で伝えられないもどかしさや伝えることの怖さ、沈黙の重みを敢えて漫画という無音のメディアで描いている点も良いなと感じます。京都アニメーションによる劇場アニメ版も素晴らしいですが僕は断然漫画で読むのをおすすめします。



## 『岩田さん 岩田聡はこんなことを話していた。』

ほぼ日刊イトイ新聞/編 ほぼ日

任天堂の社長を務められていた故・岩田聡さんの言葉、哲学をつづった本です。勤めていた会社の上司がある朝「これを読め！」と部下全員に配布しだしたのがこの本との出会いでした。なんだービジネス書かよ〜と渋い顔をしながらページをめくると心温まる1人の人物の人生が優しく描かれていました。



## 『ショートアニメーションメイキング講座』

吉邊尚希/著 技術評論社

CLIPSTUDIOで手描きのショートアニメを作るならまずはこの本を読むのが良いと思います。「どうやったら手描きアニメを上手に描けますか」と質問をいただくことがありますがいつもこの本をおすすめしています。CLIPSTUDIOの使用方法はもちろんアニメーションそのものの描き方や考え方も丁寧にまとめられています。



# 「Hurray！」おはじきさんのおすすめ本②

## 『エヴァンゲリオン新劇場版アニメーション原画集』

「エヴァンゲリオン新劇場版:Q」アニメーション原画集編集部/編 グラウンドワークス

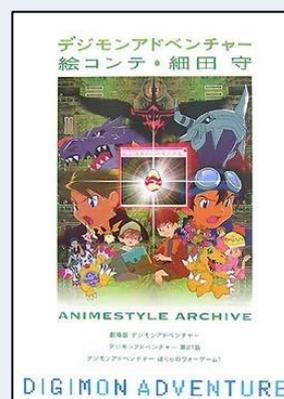
映画に使用されたアニメーション原画、レイアウトが紹介されています。長い制作期間を設けて作られている作品なわけですから原画素材も丁寧緻密で極上です…。商業アニメーションの原画の仕事をする際によく参考にしています。アニメーションに興味がありましたら是非気になる巻を開いてみてください。作画沼へようこそ。



## 『デジモンアドベンチャー絵コンテ・細田守』

アニメスタイル編集部/編 スタイル

「デジモンアドベンチャーぼくらのウォーゲーム！」が僕の人生を変えた作品なのでこの本を紹介しましたが、他の細田作品も同シリーズでコンテ集が出ているのでもし好きな作品があればそちらでも。どの作品も参加されてるのは凄腕アニメーターばかりですがアニメーターが個性を暴走させることなく細田さんのコンテに忠実に従っているのがわかります。



## 『くつやのねこ』 いまいあやの/著 BL出版

表紙の絵が可愛くて購入した絵本です。「長靴をはいた猫」を読んだことがある方は「これなんか知ってる！」と思われるかもしれませんが。童話らしいオチも面白いのですがとにかく絵が良いです。魔物が「おそろしいけもの」に化けて猫を追い出すページの猫の顔の丸みが本当に可愛い。疲れた日にはたまには絵本でも開いてみるのも良いと思います。



## 『DER KLEINE UND DAS BIEST』

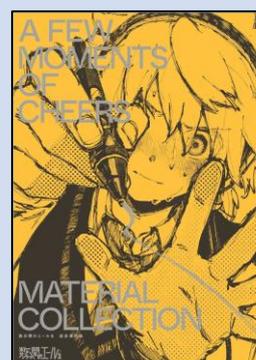
Marcus Saueremann/著 Uwe Heidschötter/画 Klett Kinderbuch

大学時代に研修旅行でスイスに行った際に購入した本です。ある日怒りんぼうの獣になってしまったお母さんとその坊やのお話。お母さんが獣になってしまった理由も明かされますが共感できる人も多いんじゃないかな。人は悲しいことがあったり混乱していると一時的に不安定になってしまうことがあります。そんな時に寄り添ってくれる優しい本だと思います。



## 『数分間のエールを設定資料集』

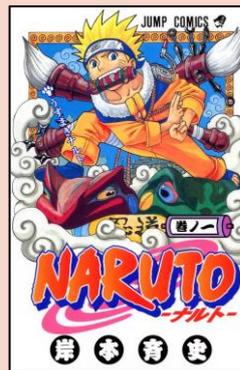
「数分間のエールを」の設定や裏話、使用素材を余すところなくまとめた本です(照)。読者の隣でHurray!がわちゃわちゃ思い出話をしているような雰囲気のできたらとぼぶりか、まごつきと一緒に工夫をしました。もし「数分間のエールを」に興味を持っていただけたならこの本を片手に映画を鑑賞していただけると嬉しいです。



# 「Hurray！」まごつきさんのおすすめ本①

## 『NARUTO』 岸本斉史/編 集英社

受験も就活も、主人公・うずまきナルトの背中があったから踏ん張れました。「諦めない」というあまりにもシンプルでまっすぐなメッセージを72巻かけてこれでもかと伝えてくる人生の教科書。



## 『それでも町は廻っている』 石黒正数/編 少年画報社

なんでもない日々を彩るのは結局自分の捉え方ひとつなんだとこの漫画を読むたび思います。

日常の中の小さな発見から話を広げる作品が大好きな方に強くおすすめしたいです！



## 『付き合っただけでもいいかな』

たみふる/漫画 小学館

『恋愛モノってどうして付き合うまでの話ばかりなんだろう？むしろ付き合ってからのもやもやがもっと読みたい！』という作者のたみふる先生による強い意思の元、本当にずっっ……とぐちゃぐちゃ生々しくぶつかり合うヒューマンドラマの作品です。

同性愛特有の葛藤も含め、登場人物全員の実在感、その人生を垣間見ている感を味わってほしいです。そして一緒に口スに陥りましょう。



## 『血の轍』 押見修造/漫画 小学館

この作品を何というジャンルで紹介したらいいかもわかりません。一応サイコサスペンスらしいのですが、あまりにも作者の押見先生が人生を削って描いた印象が強すぎて一言で表現するのが憚られます。

全く紹介できていませんがホラーが特別苦手じゃない方には読んで欲しいです。是非、最終巻のあとがきまで。



## 『これ描いて死ね』 とよ田みのる/編 小学館

漫画を描く主人公たちを通して物を作る事の楽しさ・眩しさが瑞々しく描かれているのですが、この作品のミソは毎巻の巻末に掲載されている『漫画家を諦めた先生』視点の読み切りだと思えます。

主人公たちの姿が眩しいからこそ響く…。

何かを創った事がある人、もしくは創り始めている人なら登場人物の誰かの台詞に強く共感できるはずです。



# 「Hurray！」まごつきさんのおすすめ本②

## 『日記の練習』 くどうれいん/著 NHK出版

小説家の方の日記本です。以前、見知らぬ人の日記をまとめたZINEを買ってすごく面白かったので別の本も買ってみたいと思い、書店で表紙のシンプルさが逆に目を引いて手に取ったのがこちらでした。

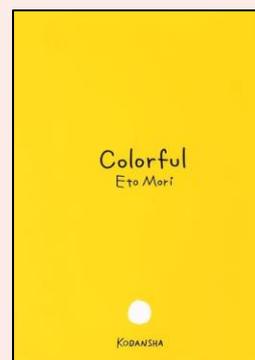
言葉選びが本当に綺麗な上に読みやすく、それでいて良い意味で生活感が駄々洩れの内容で、人の人生を一方的に垣間見たい欲がある自分にはドツボでした。



## 『カラフル』 森絵都/著 講談社

紹介している本の大半が漫画な辺りからにじみ出ているかと思いますが、私は小さい頃からほとんど小説を読んだことがありませんでした。そんな中、中学生の時にこのまっ黄色で目立つ本を図書館で見つけ、初めて最後まで読めたのがこの小説です。

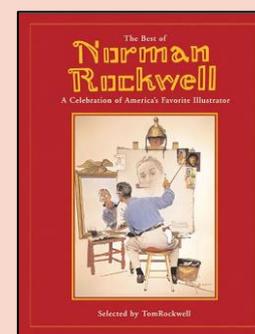
読みやすさ、導入の引き、徐々に明かされていく真実...飽きる事なく一気に読み切った記憶があります。



## 『The Best of Norman Rockwell』

Norman Rockwell/著 Running Press

表紙に使われているイラストからもあふれ出てますが、ノーマン・ロックウェルが描くキャラクターの愛らしくてユーモア溢れる性格、その魅力を見せる場面選び、圧倒的な画力...ずっと憧れのイラストレーターです。

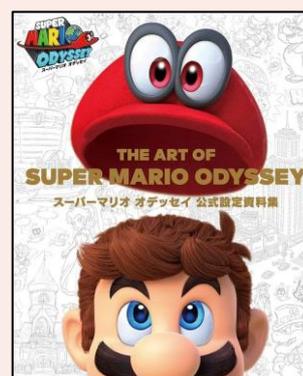


## 『THE ART OF SUPER MARIO ODYSSEY』

ニンテンドードリーム編集部/著 徳間書店

クリアしたゲームの設定資料集は大体買うようにしていますが、中でもこのスーパーマリオオデッセイの設定資料集はイチオシです！

各アートワークがラフや没案も含めてたっぷり載っているのは勿論、それぞれ担当したデザイナーさんがかなりしっかりとした文章量で『どういう理由からこのコンセプト・モチーフを選んだのか』『どの部分で苦労したか』『こだわった場所・制作秘話』などを細やかにコメントしてくださっています。



## 『VISION』 ハンス・P・バッハー/著 サナタン・スルヤヴァンシ/共著 ボーンデジタル

ディズニーでプロダクション・デザイナーも務めていた方による、ストーリーを伝えるためのビジュアル参考書です。

映画でイメージボードを量産する事が決まった時に慌てて買いました。こういった類の参考書は敷居が高い印象がありますが、この本は冒頭に「絵を描く人は字で説明されても頭に入らないと思うからなるだけ絵で説明します」(意識)という話から始まってくれて安心感が凄かったです。実際にハチャメチャ分かりやすい。

